

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300397		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	長崎県島原市中安德町1769番地3		
自己評価作成日	平成 30年 11月 20日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 30年 12月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには、平成新山と眉山が大きくそびえ立ち、東を見渡すと有明海が広がっており、景色が良い、環境に恵まれた立地に建てられています。  
季節ごとのお花見や外出を積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、周辺に住宅地や公園などがある主要道路から近い交通の便の良い場所に位置している。西側には平成新山や眉山を臨むことができ、東側には有明海が一望できる環境となっている。平成30年7月に運営法人の変更があったが、そのまま職員も引き継ぎ大きな変更もなく、安定した運営が継続されている。共用スペースには季節の行事やドライブのほか、入居者と近隣の保育園や中学生との交流の様子を収めた笑顔の写真が掲示されている。また、入居者の下肢筋力向上を目的とした機能訓練等の機器が設置されており、職員と一緒に歩行訓練を行ったり入居者がソファで寛ぎながらテレビ鑑賞を行ったりする様子が見られ、入居者一人ひとりが快適で活動的な生活が保たれるようホーム全体で支援に取り組まれていることが窺える。家族との連携については、電話での連絡だけでなく、誕生会や外出の様子などのDVDやスライドショーを作成し、入居者の現在の様子を伝える取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームしおさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが見やすく、目につくところに貼っている。 利用者一人、一人の役割を考えて、毎日、業務に取り組んでいる。	ホームでは『毎日一生懸命、生涯現役』という開設当時の理念を玄関に掲示し、職員全員が共通理解に努めている。職員は日々の生活支援や業務の中で、入居者一人ひとりが自分らしく生きるための理念に基づくケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園や中学、高校、お寺等の地域交流を行っている。	ホームは、入居者の散歩の際に近隣住民と挨拶を交わしたり、近くの保育園からの園児訪問や中高生の職場体験の受け入れを行うなど地域との交流を図っている。また、5年前からは2～3か月に1回近くの住職による法話が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方に理解していただく為、認知症の人の言葉や行動等の説明をし、協力をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの状況等を説明し、毎回、意見をいただいている。	運営推進会議には、民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表などの参加がある。会議では、ホームの防災や虐待についての取り組みなどについて意見交換し、サービス改善のための検討を行っている。また、写真を用いて入居者の普段の活動の様子を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員へ情報をお伝えし、スタッフ研修等を共同で行っている。	ホームでは平成30年11月に地震による溶岩ドームの崩落を想定した市主催の防災訓練に参加し、市職員・地元消防団・自衛隊と連携されている。また、日頃から市職員との連絡・連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の身体拘束の研修に参加している。 又、時間がある時に事業所内でお話ししており、ケアにも取り組んでいる。	ホームでは開設以来身体拘束をしないケアに取り組んでおり、現在まで拘束の事例はない。職員は、内部・外部の研修への参加や職員同士でより良い介助方法やケアについて意見交換を行いながら日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の虐待防止の研修に参加している。 又、時間がある時に事業所内でお話ししており、ケアにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、研修を行い、利用者が必要時、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や利用契約書の説明を十分に行い、改定の際も理解して、納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や広報等で家族からの意見や要望を聞くようにしている。又、利用者からは、毎日の関わりの中で、聞くようにしている。	ホームでは入居者からの意見・要望は日々の生活の中で職員が聴き取り、管理者と協議し対応している。家族の意見・要望については運営推進会議や面会時に随時対応し、傾聴・業務改善に努めている。	ホームでは入居者や家族からの意見について随時傾聴を行い、改善に向けて取り組む姿勢が窺える。今後、より意見を出しやすくするためにもホーム内に『ご意見箱』を設置することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	管理者は職員会議や時間を設けるなどして職員の意見や提案を聞くよう努め、ホーム運営に活かしている。職員も「いつでも管理者に話を聴いてもらえるので良い」と話し、関係が良好であることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の頑張りに応じて、細かい査定を行い、報酬にて評価している。又、様々なスタッフ研修も定期で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議やスタッフ研修において、スタッフ一人一人の力量に応じて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に入会し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び本人より情報提供をして頂き、アセスメント、ケアプランを基に、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族及び本人より情報提供をして頂き、アセスメント、ケアプランを基に、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び本人より情報提供をして頂き、アセスメント、ケアプランを基に、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見つけ出し、洗濯物や掃除機掛け、食器洗い等、施設のお手伝いを行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時間を大切に、本人の要望があれば、ご家族と相談し、1時帰宅を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、ご家族等を含めて支援を行っている。	ホームでは入居者が以前暮らしていた地域の美容室や友人宅への外出、お墓参りなどの支援を行っている。職員は本人が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう家族と連携して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう、レクリエーションの参加、会話を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所後もご家族等と連絡を取り、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が施設内での暮らしの中で、希望や意向を把握し、できるだけ行えるよう支援している。	職員は常に入居者の意見を聴くように心がけており、日常の対話の中で「寒い」との訴えがある時には家族と相談して服の購入を行っている。また、歯科受診の希望があれば希望された歯科医への受診を行っている。ホームでは本人の思いを傾聴し、「どうしたいか」を確認しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から情報提供して頂いたアセスメントを把握し、グループホームの生活の中でも会話等で、これまでの事を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や一人一人と関わっていく中で、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を必要な時期に開き、話し合いを行い、ケアプランを作成している。変更が必要な場合は、都度、変更している。	ケアプランは、入居者本人や家族、主治医等の意見を聴いてケアマネジャーや管理者が作成している。職員は入居者の生活パターンや趣味嗜好の把握に努めており、日々の支援に活かされている。プラン内容の変更が必要な場合には迅速に対応し、その都度変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや職員会議で情報共有し、必要であればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の思いを大切に、施設内のサービスだけではなく、施設外のインフォーマルなサービス(お花見や地域交流等)にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に必要な地域資源を各関係機関、スタッフ同士の情報交換により把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望の病院を受診し、病院との連携も行っている。	ホームでは入居者や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、インフルエンザの予防接種については提携医の往診で対応されている。また、定期的に提携病院看護師の訪問もあり、医師との連携がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に行っている医療連携時において利用者の、いつもと違う、症状や行動等を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が利用している病院等と連絡を取り合い、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族には、重度化やターミナルについてお話しをし、本人や家族の意向を踏まえて、納得できる支援を行っている。	ホームでの看取りは10年中1件の実績があり、マニュアルの作成や入居者本人と家族の意思を確認し支援するなど体制を整備されている。また、職員は看取りに関しての内部及び外部での研修に参加している。	ホームでは看取りについてのマニュアルを作成し取り組まれている。今後は重要事項説明書などへの説明文の記載や、看取りの時期についての説明と同意を確認するための書式の整備が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し研修や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し研修や訓練を行っている。地域交流や研修を踏まえて、協力を依頼している。	ホームでは年2回以上避難訓練を実施しており、消防署立ち会いのもと地区消防団などとともに消火器を使用した消火訓練も行っている。平成30年11月には地震による溶岩ドームの崩落を想定した島原市主催の防災訓練に参加し、地域との協力体制の構築に努められている。	備蓄品については、災害時の生活を考慮すると3日分程度を準備することが望まれる。また、避難時に持ち出す入居者情報については、避難の際にすぐに持ち出しができるよう整備することが望ましい。今後、管理者は法人と検討する意向にあり、備蓄品の充実や入居者情報の一覧表を整備することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーや尊厳の研修を行い、一人一人の性格を把握し、声掛け、ケアを行っている。	職員は入居者に対して丁寧な言葉を使うよう意識しており、入居者一人ひとりの尊厳が保たれるよう支援に努めている。また、「～ですね。」と言葉の語尾を「ね」で終えることにより、入居者への同意と共感を示すことができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、思いや希望の問いかけ、自己決定できるような声掛け、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を大切にし、できるだけ利用者を優先し、希望を把握して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族が必要と思われる道具は自由に持って来ることができ、使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、栄養状態等を考えて提供している。又、食事準備や片づけ等ではできる方には手伝ってもらっている。	献立は地域の食材の使用や栄養バランスを考慮したものとなり、年末の餅つきでの餅やおせちの提供を行うなど、季節や行事に合わせた支援を行っている。職員は、入居者一人ひとりの好みやアレルギー、食形態への配慮を行っており、茶碗・箸等も入居者に合わせたものを使用するなど、食事が楽しめるような支援の工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の利用者の栄養、水分摂取状況は、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要な口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔、尿便意を把握し、必要なケアを行っている。	職員は入居者一人ひとりの排泄パターンを記録し、本人の状態把握に努めている。日中はできる限りトイレで排泄できるよう声掛けを行い、夜間はベッド横にポータブルトイレを設置し、一人ひとりの排泄間隔に合わせた声掛けや排泄介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、運動量を把握し、工夫をしている。どうしても便秘の方は下剤で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員、職員、勤務時間の都合で入浴を行っている。(火、木、土の週3回)	ホームでの入浴は週3回行っており、状況に応じて別日での入浴にも対応している。職員はゆず湯や菖蒲湯など入居者に季節感を感じてもらえるような工夫を行っている。脱衣所については冬は足元へヒーターを設置し、夏にはクーラーと扇風機を併用して対応されている。	ホームでは3~4か月毎にエアコンや排気口のフィルター清掃が行われているが、脱衣所のエアコンフィルターにホコリの付着が見受けられる。今後、定期的な点検や清掃が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が好きな時にお部屋で眠る事ができ、眠そうな利用者さんを見たら、声掛けし、お部屋へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の、お薬説明書を個人ファイルに添付して、把握している。又、常に、顔色や様子を観察しており、症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中で、出来る事や役割を探しだし、それを行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、秋と天候が良い時は外出を行っている。個人の要望にもできるだけ、こたえられるよう、行ける時に、行っている。	ホームでは天気の良い日には散歩や足湯、紅葉見物などに出かけたり日光浴を行ったりして入居者の気分転換を図っている。週1回は買い物支援を行い、入居者は好きな菓子などを購入している。正月・盆などには家族の協力を得て自宅で過ごせるよう支援されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じたお金を持って頂き、買い物時お金の支払いや、購入した物品の金額を伝えたり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も好きな時にかける事ができ、手紙も好きな時に出す事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所には、みなさんが好まれる、季節の飾りをしており、その時に合わせた温度調整もこまめに行っている。	共用スペースのソファは入居者が希望する定位置があり、職員はその情報を把握いつでも座ることができるよう心掛けている。室温は共用スペース南側の窓から差し込む自然の光を活用し、衣類を少し羽織る程度に調整することにより入居者の機能活性化を促している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は、好きな時にお部屋に戻る事ができる。仲のよい利用者は把握しており、座席の配置や誘導も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物等、自由に自宅から持って来られ、ダンスやクローゼットに収納しできるだけ、整理されている。	居室には入居者が自宅で使用していた馴染みの物や家具を持ち込むことが可能となっている。ホームでは、入居者が自分らしく生活しやすい居室づくりへの工夫や支援を行っている。	居室のベッド横にあるポータブルトイレについて、収納または目隠しがなされていない。入居者の使い勝手を考慮しながら、入居者が昼間使用しない場合は目隠し等の工夫を行い、配慮することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事、わかる事を把握しており、必要に応じて、見守り、声掛け、誘導を行い、安全な生活を支援している。		